

1. (1) 3点 $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$, $C(\vec{c})$ を頂点とする $\triangle ABC$ がある。辺 AB を $2:3$ に内分する点 M を通り、辺 AC に平行な直線のベクトル方程式を求める。
- (2) (ア) 2点 $(-3, 2)$, (2, -4) を通る直線の方程式を媒介変数 t を用いて表せ。
(イ) (ア)で求めた直線の方程式を、 t を消去した形で表せ。

3. 点 $A(4, 5)$ から直線 $\ell: x+2y-6=0$ に垂線を引き、 ℓ との交点を H とする。
(1) 点 H の座標を、ベクトルを用いて求めよ。
(2) 線分 AH の長さを求めよ。

4. 平行四辺形 $ABCD$ において、辺 AB の中点を M 、辺 BC を $1:2$ に内分する点を E 、辺 CD を $3:1$ に内分する点を F とする。 $\overrightarrow{AB}=\vec{b}$, $\overrightarrow{AD}=\vec{d}$ とするとき
(1) 線分 CM と FE の交点を P とするとき、 \overrightarrow{AP} を \vec{b} , \vec{d} で表せ。
(2) 直線 AP と対角線 BD の交点を Q とするとき、 \overrightarrow{AQ} を \vec{b} , \vec{d} で表せ。

2. (1) 点 $A(-2, 1)$ を通り、直線 $3x-5y+4=0$ に平行な直線、垂直な直線の方程式をそれぞれ求めよ。
(2) 2直線 $x-3y+5=0$, $2x+4y+3=0$ のなす鋭角を求めよ。

5. 平面上の $\triangle OAB$ と任意の点 P に対し、次のベクトル方程式は円を表す。どのような円か。

(1) $|3\vec{OA} + 2\vec{OB} - 5\vec{OP}| = 5$ (2) $\vec{OP} \cdot (\vec{OP} - \vec{AB}) = \vec{OA} \cdot \vec{OB}$

6. 座標平面において、 $\triangle ABC$ は $\vec{BA} \cdot \vec{CA} = 0$ を満たしている。この平面上の点 P が条件 $\vec{AP} \cdot \vec{BP} + \vec{BP} \cdot \vec{CP} + \vec{CP} \cdot \vec{AP} = 0$ を満たすとき、 P はどのような図形上の点であるか。

7. $\triangle ABC$ において、 $A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c})$ とする。次の直線のベクトル方程式を求めよ。

- (1) 辺 AB の中点と辺 AC の中点を通る直線 (2) 辺 BC の垂直二等分線

1. (1) 3点 $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$, $C(\vec{c})$ を頂点とする $\triangle ABC$ がある。辺 AB を $2:3$ に内分する点 M を通り、辺 AC に平行な直線のベクトル方程式を求める。
- (2) (ア) 2点 $(-3, 2)$, $(2, -4)$ を通る直線の方程式を媒介変数 t を用いて表せ。
(イ) (ア)で求めた直線の方程式を、 t を消去した形で表せ。

解答 t は媒介変数とする。 (1) $\vec{p} = \left(\frac{3}{5}-t\right)\vec{a} + \frac{2}{5}\vec{b} + t\vec{c}$

(2) (ア) $\begin{cases} x=5t-3 \\ y=-6t+2 \end{cases}$ (イ) $6x+5y+8=0$

解説

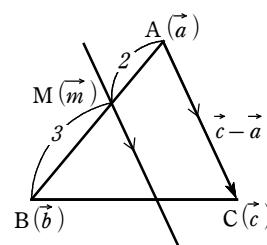
- (1) 直線上の任意の点を $P(\vec{p})$ とし、 t を媒介変数とする。

$M(\vec{m})$ とすると $\vec{m} = \frac{3\vec{a}+2\vec{b}}{5}$

辺 AC に平行な直線の方向ベクトルは \vec{AC} であるから

$$\vec{p} = \vec{m} + t\vec{AC} = \frac{3\vec{a}+2\vec{b}}{5} + t(\vec{c}-\vec{a})$$

整理して $\vec{p} = \left(\frac{3}{5}-t\right)\vec{a} + \frac{2}{5}\vec{b} + t\vec{c}$ (t は媒介変数)



- (2) (ア) 2点 $(-3, 2)$, $(2, -4)$ を通る直線上の任意の点の座標を (x, y) とすると
 $(x, y) = (1-t)(-3, 2) + t(2, -4) = (-3(1-t) + 2t, 2(1-t) - 4t)$

$$= (5t-3, -6t+2)$$

よって $\begin{cases} x=5t-3 \\ y=-6t+2 \end{cases}$ (t は媒介変数)

(イ) $x=5t-3 \dots \textcircled{1}$, $y=-6t+2 \dots \textcircled{2}$ とする。

$\textcircled{1} \times 6 + \textcircled{2} \times 5$ から $6x+5y+8=0$

2. (1) 点 $A(-2, 1)$ を通り、直線 $3x-5y+4=0$ に平行な直線、垂直な直線の方程式をそれぞれ求めよ。

- (2) 2直線 $x-3y+5=0$, $2x+4y+3=0$ のなす鋭角を求めよ。

解答 (1) 順に $3x-5y+11=0$, $5x+3y+7=0$ (2) 45°

解説

- (1) $3x-5y+4=0 \dots \textcircled{1}$ とする。

$\vec{n}=(3, -5)$ とすると、 \vec{n} は直線 $\textcircled{1}$ の法線ベクトルであり、直線 $\textcircled{1}$ の方向ベクトルを

$\vec{m}=(a, b)$ とすると $\vec{m} \cdot \vec{n}=0$ よって $3a-5b=0$

ゆえに $b=\frac{3}{5}a$ よって $\vec{m}=(a, \frac{3}{5}a)=\frac{a}{5}(5, 3)$

ゆえに、 $\vec{m}=(5, 3)$ ととることができる。

直線 $\textcircled{1}$ に平行な直線の法線ベクトルは \vec{n} であるから、点 $A(-2, 1)$ を通り、直線 $\textcircled{1}$ に平行な直線上の点を $P(x, y)$ とすると $\vec{n} \cdot \vec{AP}=0$

$\vec{AP}=(x+2, y-1)$ であるから

$$3(x+2)-5(y-1)=0 \quad \text{すなわち} \quad 3x-5y+11=0$$

また、直線 $\textcircled{1}$ に垂直な直線の法線ベクトルは \vec{m} であるから、点 $A(-2, 1)$ を通り、直線 $\textcircled{1}$ に垂直な直線上の点を $Q(x, y)$ とすると $\vec{m} \cdot \vec{AQ}=0$

$\vec{AQ}=(x+2, y-1)$ であるから

$$5(x+2)+3(y-1)=0 \quad \text{すなわち} \quad 5x+3y+7=0$$

- (2) 2直線 $x-3y+5=0$, $2x+4y+3=0$ をそれぞれ ℓ_1 , ℓ_2 とすると、 ℓ_1 , ℓ_2 の法線ベクトルはそれぞれ $\vec{n}_1=(1, -3)$, $\vec{n}_2=(2, 4)$ とおける。

$$\vec{n}_1 \cdot \vec{n}_2 = 1 \times 2 - 3 \times 4 = -10, |\vec{n}_1| = \sqrt{1^2 + (-3)^2} = \sqrt{10}, |\vec{n}_2| = \sqrt{2^2 + 4^2} = \sqrt{20}$$

であるから、 \vec{n}_1 と \vec{n}_2 のなす角を θ とすると

$$\cos \theta = \frac{\vec{n}_1 \cdot \vec{n}_2}{|\vec{n}_1| |\vec{n}_2|} = \frac{-10}{\sqrt{10} \sqrt{20}} = -\frac{1}{\sqrt{2}}$$

$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ であるから $\theta = 135^\circ$

したがって、2直線 ℓ_1 , ℓ_2 のなす鋭角は $180^\circ - 135^\circ = 45^\circ$

3. 点 $A(4, 5)$ から直線 $\ell: x+2y-6=0$ に垂線を引き、 ℓ との交点を H とする。

- (1) 点 H の座標を、ベクトルを用いて求めよ。

- (2) 線分 AH の長さを求めよ。

解答 (1) $H\left(\frac{12}{5}, \frac{9}{5}\right)$ (2) $\frac{8\sqrt{5}}{5}$

解説

- (1) $\vec{n}=(1, 2)$ とすると、 \vec{n} は直線 ℓ の法線ベクトルであるから $\vec{n} \parallel \vec{AH}$

よって、 $\vec{AH}=k\vec{n}$ (k は実数) とおけるから、 $H(s, t)$ とすると $(s-4, t-5)=k(1, 2)$

ゆえに $s-4=k \dots \textcircled{1}$, $t-5=2k \dots \textcircled{2}$

また、 $s+2t-6=0$ であるから、 $\textcircled{1}$, $\textcircled{2}$ より

$$4+k+2(5+2k)-6=0 \quad \text{したがって} \quad k=-\frac{8}{5}$$

よって、 $\textcircled{1}$, $\textcircled{2}$ から $s=\frac{12}{5}, t=\frac{9}{5}$

したがって $H\left(\frac{12}{5}, \frac{9}{5}\right)$

別解 $H(6-2t, t)$, $\vec{n}=(1, 2)$ とすると、 $\vec{n} \parallel \vec{AH}$ であるから

$$1 \cdot (t-5) - 2(2-2t) = 0 \quad \text{よって} \quad t = \frac{9}{5}$$

ゆえに $H\left(\frac{12}{5}, \frac{9}{5}\right)$

$$(2) \vec{AH} = -\frac{8}{5}\vec{n} \text{ から } AH = |\vec{AH}| = \frac{8}{5}\sqrt{1^2+2^2} = \frac{8\sqrt{5}}{5}$$

4. 平行四辺形 $ABCD$ において、辺 AB の中点を M 、辺 BC を $1:2$ に内分する点を E 、辺 CD を $3:1$ に内分する点を F とする。 $\vec{AB}=\vec{b}$, $\vec{AD}=\vec{d}$ とするとき

- (1) 線分 CM と FE の交点を P とするとき、 \vec{AP} を \vec{b} , \vec{d} で表せ。

- (2) 直線 AP と対角線 BD の交点を Q とするとき、 \vec{AQ} を \vec{b} , \vec{d} で表せ。

解答 (1) $\vec{AP} = \frac{10}{13}\vec{b} + \frac{7}{13}\vec{d}$ (2) $\vec{AQ} = \frac{10}{17}\vec{b} + \frac{7}{17}\vec{d}$

解説

- (1) $CP: PM=s : (1-s)$, $EP: PF=t : (1-t)$ とすると

$$\vec{AP} = (1-s)\vec{AC} + s\vec{AM} = (1-s)(\vec{b} + \vec{d}) + \frac{s}{2}\vec{b}$$

$$= \left(1 - \frac{s}{2}\right)\vec{b} + (1-s)\vec{d}$$

$$\vec{AP} = (1-t)\vec{AE} + t\vec{AF}$$

$$= (1-t)\left(\vec{b} + \frac{1}{3}\vec{d}\right) + t\left(\vec{d} + \frac{1}{4}\vec{b}\right)$$

$$= \left(1 - \frac{3}{4}t\right)\vec{b} + \frac{1+2t}{3}\vec{d}$$

$\vec{b} \neq \vec{0}$, $\vec{d} \neq \vec{0}$, $\vec{b} \neq \vec{d}$ であるから $1 - \frac{s}{2} = 1 - \frac{3}{4}t$, $1-s = \frac{1+2t}{3}$

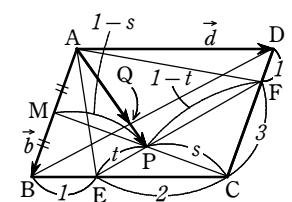
よって $s = \frac{6}{13}$, $t = \frac{4}{13}$ ゆえに $\vec{AP} = \frac{10}{13}\vec{b} + \frac{7}{13}\vec{d}$

(2) 点 Q は直線 AP 上にあるから、 $\vec{AQ} = k\vec{AP}$ (k は実数) とおける。

よって $\vec{AQ} = k\left(\frac{10}{13}\vec{b} + \frac{7}{13}\vec{d}\right) = \frac{10}{13}k\vec{b} + \frac{7}{13}k\vec{d}$

点 Q は直線 BD 上にあるから $\frac{10}{13}k + \frac{7}{13}k = 1$ ゆえに $k = \frac{13}{17}$

したがって $\vec{AQ} = \frac{10}{17}\vec{b} + \frac{7}{17}\vec{d}$



5. 平面上の $\triangle OAB$ と任意の点 P に対し、次のベクトル方程式は円を表す。どのような円か。

(1) $|3\vec{OA} + 2\vec{OB} - 5\vec{OP}| = 5$ (2) $\vec{OP} \cdot (\vec{OP} - \vec{AB}) = \vec{OA} \cdot \vec{OB}$

解答 (1) 辺 AB を $2:3$ に内分する点を中心とし、半径 1 の円

(2) 点 O に関して点 A と対称な点と点 B を直径の両端とする円

解説

$\vec{OA}=\vec{a}$, $\vec{OB}=\vec{b}$, $\vec{OP}=\vec{p}$ とする。

(1) $|3\vec{OA} + 2\vec{OB} - 5\vec{OP}| = \left| -5\left(\vec{p} - \frac{3\vec{a}+2\vec{b}}{5} \right) \right|$

であるから、ベクトル方程式は

$$5\left|\vec{p} - \frac{3\vec{a}+2\vec{b}}{5}\right| = 5$$

すなわち $\left|\vec{p} - \frac{3\vec{a}+2\vec{b}}{2+3}\right| = 1$

よって、辺 AB を $2:3$ に内分する点を中心とし、半径 1 の円。

- (2) ベクトル方程式は

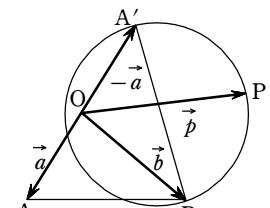
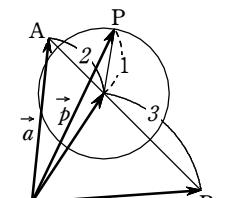
$$\vec{p} \cdot \{\vec{p} - (\vec{b} - \vec{a})\} = \vec{a} \cdot \vec{b}$$

よって $|\vec{p}|^2 + (\vec{a} - \vec{b}) \cdot \vec{p} - \vec{a} \cdot \vec{b} = 0$

ゆえに $(\vec{p} + \vec{a}) \cdot (\vec{p} - \vec{b}) = 0$

すなわち $\{\vec{p} - (-\vec{a})\} \cdot (\vec{p} - \vec{b}) = 0$

よって、点 O に関して点 A と対称な点と点 B を直径の両端とする円。



6. 座標平面において、 $\triangle ABC$ は $\overrightarrow{BA} \cdot \overrightarrow{CA} = 0$ を満たしている。この平面上の点 P が条件 $\overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{BP} + \overrightarrow{BP} \cdot \overrightarrow{CP} + \overrightarrow{CP} \cdot \overrightarrow{AP} = 0$ を満たすとき、 P はどのような图形上の点であるか。

解答 点 P は $\triangle ABC$ の重心 G を中心とし、半径が AG の円周上の点

(解説)

$\overrightarrow{AB} = \vec{b}$, $\overrightarrow{AC} = \vec{c}$, $\overrightarrow{AP} = \vec{p}$ とするとき、条件式は

$$\vec{p} \cdot (\vec{p} - \vec{b}) + (\vec{p} - \vec{b}) \cdot (\vec{p} - \vec{c}) + (\vec{p} - \vec{c}) \cdot \vec{p} = 0 \quad \dots \dots \textcircled{1}$$

$\overrightarrow{BA} \cdot \overrightarrow{CA} = 0$ より $\vec{b} \cdot \vec{c} = 0$ であるから、\textcircled{1}を整理して

$$3|\vec{p}|^2 - 2(\vec{b} + \vec{c}) \cdot \vec{p} = 0$$

$$\text{よって } |\vec{p}|^2 - \frac{2}{3}(\vec{b} + \vec{c}) \cdot \vec{p} = 0$$

$$\text{ゆえに } |\vec{p}|^2 - \frac{2}{3}(\vec{b} + \vec{c}) \cdot \vec{p} + \frac{1}{9}|\vec{b} + \vec{c}|^2 = \frac{1}{9}|\vec{b} + \vec{c}|^2$$

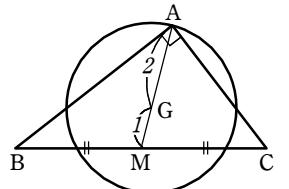
$$\text{よって } \left| \vec{p} - \frac{2}{3}\left(\frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}\right) \right|^2 = \left| \frac{2}{3}\left(\frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}\right) \right|^2$$

$$\text{ゆえに } \left| \vec{p} - \frac{2}{3}\left(\frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}\right) \right| = \left| \frac{2}{3}\left(\frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}\right) \right|$$

$$\text{辺 } BC \text{ の中点を } M \text{ とすると } \frac{2}{3}\left(\frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}\right) = \frac{2}{3}\overrightarrow{AM}$$

$$\frac{2}{3}\overrightarrow{AM} = \overrightarrow{AG} \text{ とすると、点 } G \text{ は } \triangle ABC \text{ の重心となる。}$$

したがって、点 P は $\triangle ABC$ の重心 G を中心とし、半径が AG の円周上の点である。



7. $\triangle ABC$ において、 $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$, $C(\vec{c})$ とする。次の直線のベクトル方程式を求めよ。

- (1) 辺 AB の中点と辺 AC の中点を通る直線 (2) 辺 BC の垂直二等分線

解答 求める直線上の任意の点を $P(\vec{p})$ とする。

$$(1) \vec{p} = \frac{1}{2}\vec{a} + \left(\frac{1}{2} - t\right)\vec{b} + t\vec{c} \quad (t \text{ は媒介変数}) \quad (2) 2\vec{p} \cdot (\vec{c} - \vec{b}) = |\vec{c}|^2 - |\vec{b}|^2$$

(解説)

求める直線上の任意の点を $P(\vec{p})$ とする。

- (1) 辺 AB , AC の中点を通る直線は \overrightarrow{BC} に平行であるから、辺 AB の中点を $D(\vec{d})$ とすると、求めるベクトル方程式は

$$\vec{p} = \vec{d} + t\overrightarrow{BC} \quad \text{すなわち} \quad \vec{p} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2} + t(\vec{c} - \vec{b})$$

$$\text{よって } \vec{p} = \frac{1}{2}\vec{a} + \left(\frac{1}{2} - t\right)\vec{b} + t\vec{c} \quad (t \text{ は媒介変数})$$

- (2) 辺 BC の中点を $E(\vec{e})$ とすると、 BC の垂直二等分線は点 E を通り \overrightarrow{BC} に垂直であるから、求めるベクトル方程式は

$$\overrightarrow{BC} \cdot (\vec{p} - \vec{e}) = 0 \quad \text{すなわち} \quad (\vec{c} - \vec{b}) \cdot \left(\vec{p} - \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2} \right) = 0$$

$$\text{ゆえに } (\vec{c} - \vec{b}) \cdot \vec{p} - \frac{1}{2}(\vec{c} - \vec{b}) \cdot (\vec{b} + \vec{c}) = 0$$

$$\text{よって } 2\vec{p} \cdot (\vec{c} - \vec{b}) = |\vec{c}|^2 - |\vec{b}|^2$$